

横浜ゾリステン

～指揮者のいないオーケストラ～

ベートーヴェン

交響曲第1番

ヴィヴァルディ

ヴァイオリン協奏曲「四季」

2012年 11月17日(土)

開演 14:00 開場 13:30

横浜市開港記念会館



Program

アントニオ・ルーチョ・ヴィヴァルディ Antonio Lucio Vivaldi

ヴァイオリン協奏曲 ホ長調 『春』 RV.269

ヴァイオリン協奏曲 ト短調 『夏』 RV.315

ヴァイオリン協奏曲 ヘ長調 『秋』 RV.293

ヴァイオリン協奏曲 ヘ短調 『冬』 RV.297

～ 休憩 ～

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン Ludwig van Beethoven

交響曲 第1番 op.21



本日はご多忙の折、横浜ゾリステン～指揮者のいないオーケストラ～2012秋公演にご来場くださり誠にありがとうございます。団を代表し厚く御礼申し上げます。

横浜ゾリステンは2009年に結成された、プロフェッショナル・オーケストラです。同年11月にベートーヴェン「運命」でデビュー、翌年5月は「ブラームプログラム」と「オーケストラを聴こう!」、11月は「イタリアプログラム」、そして昨年6月は「エロイカプログラム」、11月は「新世界プログラム」と今年5月は「カルメン×アコンカグアプログラム」と既に7回の公演活動を続けて参りました。早いものでこの秋でちょうど結成3周年となります。皆様方の暖かいご支援あってのことと心より感謝申し上げます。

さて、本日はおなじみのヴィヴァルディ「四季」、ベートーヴェン交響曲第1番です。バロック～古典派の名曲に挑みます。お楽しみいただければ幸いです。

横浜ゾリステンは引き続き高度なアンサンブルによる質の高い音楽をお届けできるよう、今後も活動を進めてまいります。引き続きよろしくごお願い申し上げます。

なお、次回公演は平成24年12月26日(水)、鎌倉芸術館小ホールにて「ジュニアとの共演、ドヴォルザーク(新世界より)他」公演を行います。次回公演も合わせて宜しくお願いいたします。

横浜ゾリステン事務局長 住田英二

横浜ゾリステン～コンサートマスター・ソリスト



田代 藍 (ヴァイオリン協奏曲『春』)

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学音楽学部器楽科卒業。東京音楽大学研究生に1年間在籍。ヴァイオリンを故・鷺見康郎、山岡耕祐、浦川宜也、荒井英治の各氏に、室内楽を生沼晴嗣、漆原啓子、河野文昭の各氏に師事。第37回鎌倉市学生音楽コンクール中高生の部第1位。第48回・第49回全日本学生音楽コンクール東京大会入選。第5回JILA音楽コンクール弦楽器部門第2位。第26回茨城県新人演奏会にて新人賞受賞。同演奏会30周年記念コンサートにも出演。大学在学中より現在に至るまで、オーケストラや室内楽、ミュージカルやスタジオレコーディング等、多方面にて活動中。鎌倉ジュニアオーケストラヴァイオリン講師。



水村 浩司 (ヴァイオリン協奏曲『夏』『冬』)

第50、55回全日本学生音楽コンクール名古屋大会第1位。東京藝術大学音楽学部器楽科及び同大学大学院修士課程卒業。これまでに北垣紀子、故久保田良作、澤和樹、山口裕之、松原勝也の各氏に師事。大学在学中から東京シティフィルハーモニックその他数々のオーケストラとヴァイオリン協奏曲を共演する。オーケストラ奏者としても名古屋フィルハーモニー交響楽団のゲストアシストコンサートマスターをつとめ、2011年には全日本選抜ユースオーケストラのゲストコンサートマスターとしてウィーン国立オペラ座で公演。横浜ゾリステンコンサートマスター、東京室内管弦楽団首席奏者、クライネスコンツェルトハウス弦楽四重奏団メンバー。



磯 晃男 (コンサートマスター、ヴァイオリン協奏曲『秋』)

4歳よりヴァイオリンを、磯良男に師事。武蔵野音楽大学高等学校、武蔵野音楽大学にて学びヴァイオリンを萩原耕介、G,Feigin、室内楽をP,Badev K,Doll Z,Tybei各教授などに師事、在学中にソリストオーディションに合格。ソリストとしてサン・サーンスのヴァイオリン協奏曲を学生オーケストラと共演。武蔵野音楽大学卒業その後武蔵野音楽大学卒業演奏会、新人演奏会、読売新聞新人演奏会などに出演。2000年、ドイツのケルン音楽大学に留学G,Peters教授に師事。在学中、オランダにて開催されたERASMUS Chamber Orchesterに、ケルン音楽大学の代表として参加し故Linare教授のもとで、オランダ、ドイツ各地にて演奏会を行い成功をおさめる。他に、様々なマイスターコースに参加、Erich教授Eadlinger教授、Tomazewski教授などに師事。パイロイト学生オーケストラに参加オーディションにより、2ndヴァイオリンのソロ、及び弦楽合奏団コンサートマスターに選ばれ、ドイツ各地で演奏会に参加。Düsseldolfer Sinfonikerの研修団員に合格しその後契約団員として、約3年間オペラ、シンフォニーコンサート出演し研鑽を積む。その他ケルン近郊のオーケストラの演奏会、教会で行われる演奏会、ミサなどに、多数出演。2005年の6月に帰国し、日本での音楽活動をスタート。帰国後2回のリサイタルを行い、成功をおさめる。東京シンフォニアコンサートマスター。日本アソシエーツ発行の日本の演奏家に選出。

横浜ゾリステン～メンバー

- ♪ヴァイオリン：磯 晃男 水村 浩司 田代 藍 田島 華乃 坂元 愛由子 畑中 友季子
♪ヴィオラ：館泉 礼一 菊地 萌子 ♪チェロ：関口 将史 山田 建史 和田 理
♪コントラバス：早川 珠実 吉本 宗司
♪フルート：長崎 亜星 小津 まゆみ ♪オーボエ：瀧澤 紘 西原 由香里
♪クラリネット：宮前 和美 石田 祥子 ♪ファゴット：河崎 聡 宮地 杏由美
♪ホルン：内田 隆太郎 大出 佳子 ♪トランペット：金城 和美 原 育海
♪ティンパニ：甘田 一成

🎵 プログラム・ノート

アントニオ・ルーチョ・ヴィヴァルディ Antonio Lucio Vivaldi

《和声と創意への試み》(Concerti a 4 e 5 "Il cimento dell'armonia e dell'invenzione") 作品8の内、第1集すなわち第1曲から第4曲までの「春」「夏」「秋」「冬」に付けられた総称です。ただし、ヴィヴァルディ自身による命名ではありません。「四季」の各協奏曲はそれぞれ3つの楽章から成っていて、それぞれの楽章には作者不明の「ソネット」が付されています。ソネット(十四行詩, Sonnet)とは、14行からなるヨーロッパの定型詩のことで、ルネサンス期にイタリアで創始されました。英語詩にも取り入れられ、代表的な詩形のひとつとなりました。このソネットゆえ、この曲は標題音楽に分類されます。ヴィヴァルディはこの「四季」で新しい旋律法やダイナミズムを追求しました。

◆ヴァイオリン協奏曲 ホ長調 『春』 RV.269

アレグロ：春がやってきた、小鳥は喜び囁きながら祝っている。小川のせせらぎ、風が優しく撫でる。春を告げる雷が轟音を立て黒い雲が空を覆う、そして嵐は去り小鳥は素晴らしい声で歌う。

ラルゴ：牧草地に花は咲き乱れ、空に伸びた枝の茂った葉はガサガサ音を立てる。羊飼は眠り、忠実な猟犬は(私の)そばにいる。ヴィオラの低いCis音が吠える犬を表現している。

アレグロ(田園曲のダンス)：陽気なバグパイプにニンフと羊飼いが明るい春の空の下で踊る。

◆ヴァイオリン協奏曲 ト短調 『夏』 RV.315

アレグロ・ノン・モルト→アレグロ：かんかんと照りつける太陽の絶え間ない暑さで人と羊の群れはぐったりしている。松の木も燃えそうに熱い。カッコウの声が聞こえる。そしてキジバトの囀りが聞える。北風がそよ風を突然脇へ追い払う。やって来る嵐が怖くて慄く。

アレグロ・プレスト・アダージョ：稲妻と雷鳴の轟きで眠るどころではない、フヨやハエが周りにすさまじくブンブン音を立てる。甲高い音でソロヴァイオリンによって奏でられる。

プレスト(夏の嵐)：嗚呼、彼の心配は現実となってしまった。上空の雷鳴と雹(ひょう)が誇らしげに伸びている穀物を打ち倒した。

◆ヴァイオリン協奏曲 ヘ長調 『秋』 RV.293

アレグロ(小作農のダンスと歌)：小作農たちが収穫が無事に終わり大騒ぎ。ブドウ酒が惜しげなく注がれる。彼らは、ほっとして眠りに落ちる。

アダージョ・モルト(酔っ払いの居眠り)：大騒ぎは次第に弱まり、酒はすべての者を無意識のうちに眠りに誘う。

アレグロ(狩り)：夜明けに、狩猟者が狩猟の準備の為にホルンを携え犬を従える。獲物は彼らが追跡している間逃げ、やがて傷つき獲物は犬と奮闘して息絶える。

◆ヴァイオリン協奏曲 ヘ短調 『冬』 RV.297

アレグロ・ノン・モルト：寒さの中で身震いしている。足の冷たさを振り解くために歩き回る。辛さから歯が鳴る。ソロヴァイオリンの重音で歯のガチガチを表現している。

ラルゴ：外は大雨が降っている、中で暖炉で満足そうに休息。ゆっくりしたテンポで平和な時間が流れる。

アレグロ：私たちはゆっくりとそして用心深くつまづいて倒れないようにして氷の上を歩く。しかし突然滑って氷に叩きつけられた。氷が裂けて割れた。頑丈なドアから出ると外はシロッコと北風がビュービュー。そんな冬であるがそれもまた、楽しい。

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン Ludwig van Beethoven

◆交響曲第1番 op.21

ベートーヴェンの交響曲第1番ハ長調作品21は、ベートーヴェンが1800年に完成させた自身1曲目の交響曲です。ピアノソナタ第8番「悲愴」や七重奏曲、6つの弦楽四重奏曲などともに、ベートーヴェンの初期の代表作として知られています。ベートーヴェンは当初ピアニストとして生計を立てていたこともあり、初期の作品はピアノソナタ、ピアノ三重奏曲、ピアノ協奏曲など、主にピアノに関する作品が中心を占めている。一方で、この時期には弦楽四重奏曲、七重奏曲などの作曲も経験しており、これらの作曲を経験することによって、ハイドン、モーツァルトら古典派の作曲技法を吸収し、自らの技術として身につけています。交響曲第1番は、ここで学んだ技術の総集編として、1799年から1800年に作曲されたものと考えられています。随所にベートーヴェン独自の意欲的な試みも認められるものの、中期から後期作品のようなベートーヴェンの強い個性はまだ出ていません。がしかし古典派の交響曲としては十分な完成度を誇っています。